

1. 活動の概要

6月16日(月)、松江市立恵曇小学校で「心に残る文化財子ども塾」を開催しました。“はにわ作り体験と松江市の古墳文化”と題し、はにわ作りを中心とした学習活動を行いました。

まず恵曇小学校のある松江市鹿島町域が古代はどのような地域であったのか、鹿島町域の縄文時代から古墳時代の遺跡について紹介するとともに、近くの古墳で見つけたはにわを近くで観察してもらうことを通じ、児童に理解してもらいます。そしてはにわにはどのような種類があり、はにわからどんなことがわかるのかを説明したあと、児童に粘土でミニはにわを作ってもらいます。この体験活動を通じ、はにわの意味やはにわ作りの大変さを実感してもらうことができたのではないかと思います。最後に古代出雲の地誌である「出雲国風土記」の記載から、恵曇小学校の「恵曇」という地名が 1300 年も前からあること、その由来が恵曇の地形に関係することを説明しました。

2. 活動の様子



「古代の鹿島町域や恵曇周辺ってどんな様子だったのかな」



「古墳はどんな形で、どんなはにわが並べられていたのかな」



「鹿島町域で見つけたはにわを近くで観察してみよう」



「粘土でミニはにわを作ってみよう」

3. 子ども塾を終えて

1)児童の皆さんから…

- ・鹿島町に遺跡がたくさんあることを知ることができました。
- ・ミニはにわを作るだけでも大変なのに、古墳にたくさんのはにわが並べられていたと知り、当時はとても大変だったのではないかと思います。
- ・話を聞いて、鹿島町や恵曇の遺跡や歴史についてもっとくわしく知りたくなりました。
- ・実際に遺跡を訪れたり、調査体験をしてみたりしたいと思いました。
- ・「恵曇」の名前の由来を知ることができてよかったです。

2)担任の先生から…

- ・以前の学習とつなげる形で鹿島町の遺跡を地図やスライドを用いて説明してもらい、わかりやすかったです。
- ・はにわ作りを通じて、はにわの意味やはにわからわかることなどを学ぶことができ、よかったです。

3)古代文化センターから…

「恵曇」は、今から約 1300 年前につくられた古代出雲の地誌である『出雲国風土記』に記されており、とても歴史のある地名です。しかも、それだけではなく、古代(縄文時代～古墳時代)の遺跡も鹿島町域にはたくさん存在し、そこから貴重な銅剣・銅鐸や銅剣・勾玉、船の部材などが見つかっており、鹿島町域が古くから重要な地域であったことがわかります。鹿島町域で見つかった古墳時代のはにわを近くで観察することを通じ、この地域の歴史を皆さんに感じてもらえたのではないかと思います。

また、はにわの種類やはにわからわかることを説明したあと、皆さんに粘土でミニはにわ作りをしてもらいました。このミニはにわ作りを通じ、はにわ作りの大変さを実感してもらえたのではないかと思います。

今回の体験活動を通して、恵曇周辺や松江市鹿島町地域の歴史について、皆さんにより一層興味関心をもってもらえたら嬉しいです。